

2023年 春季大祭・春季合同慰霊祭

のご案内

大祭執行委員長 牧 武

【日 時】 令和5年5月21日(日) 午前10時より

【場 所】 大本三河本苑

【記念講話】 講師: EPA 常任理事 前田茂樹氏

【講 題】 「エスペラントについて」

【諸行事】

- ・節分大祭人型おすすめ
功労者紹介
- ・冠沓句巻開き

三河本苑だより

5月号

2023・5 No.492

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL.0533-69-7518

FAX0533-69-1455

お知らせ

新聞ちぎり絵をしませんか?

【日時】5月28日(日)

午前10時開始
(2時間位)

【場所】大本三河本苑

【申し込み】5月21日(日) 高井、生田まで

※お子さま大歓迎です。お孫さんと一緒にどうですか?

芸術部

本苑・直心会・みどり会合同研修会 プランターによる家庭菜園づくり

プランターに土入れをする参加者



講話風景



種を入れ
完成!



プランターに土を入れる参加者

3月19日の月次祭終了後、愛善みずほ会講師・西島里司氏による「初心者のための土づくり」と題しての講話と実演があり、土に触れ「プランターによる家庭菜園づくり」を本苑駐車場にて57名の方が参加されました。また、「ドーム出張販売」もあり、楽しい研修でした。

瀬織津姫に お仕えして

南設支部 生田千佐

「瀬織津姫にお仕えしてみませんか?」

とお話をいただいた時は、正直ビックリしました。普段の生活に追われて、大本の教えに添っていないので大丈夫かと。

しかし先輩方に励まして頂き、年齢、修行の時期もギリギリでお話を頂いたのも、神さまからの贈り物だと思い覚悟を決めました。覚悟を決めたものの、日にちが、近づくにつれドキドキし不安にかられました。が前日綾部に到着した時はホッとしました。当日も寒さは辛くありませんでしたが、

皆様の祈りが詰まった壺を落とさない一心でした。帰路信者さんに「瀬織津姫をお仕えした人の目はキラキラしていますよ」と言われ、一歩踏み出して良かったと、そして、亡き両親に少しですが恩返し出来たのかと思えました。残りの人生も大本の教を基本に過ごしていきたいと思えます。

5月の行事

●21日(日)

本苑春季大祭・
祖霊慰霊大祭

・奉納冠沓句

6月の行事

●18日(日)

本苑六月月次祭

三河本苑公式LINE



↑ コチラから
本苑だより更新中

東海サミットに参加して

教務局長 永田修三



第25回東海教区サミット(長野主会)

3月5日長野主会主催、第25回東海サミットが開催されました。主会長

池田勝身様の開催宣言で始まり、お礼拝、教区総代野田様に挨拶を経て前田特派の講話へと移りました。議題は「型の大本」。良い型も悪い型も鏡である大本に出る。悪い型は改めて良い型として、世に出す。大本信徒は尊いみ教えを学び実践して立て直しのご神業にお任せさせていただく使命を持っているというお話でした。午後からは、教区間の連携とネットワークの構築、情報の共有と伝達の方法について各班に分かれて協議しました。

「分所・支部長研修会」開催のご報告



各担当役員発表

令和5年度「分所・支部長研修会」を去る3月26日に本苑にて、参加者16名で開催させていただきました。河合次長から東海

宣伝部長 生田吉亮

私の思い

碧南分所 高木敏彦

長生きの秘訣!?

5年ほど前に心筋梗塞を発症しもう少しでお国替えという事態になった。その際、息をスーツと深く吐いてから胸が楽になり、命拾いをした経験がある。

今年の2月初旬よりBSの早朝の番組で「ロングプレス」という健康法の体操を放映していることに気づき体操を始めている。この体操は、息を長く吐くことを中心にしたもので、「長生き」と「長息」を掛けたユニークな体操だ。

体操を始めて約1カ月になるが、出ていたポッコリお腹が引っ込みウエストがスッキリとしてきた。それと酷かった肩凝りが取れ、嬉しいことにゴルフのボールが良く飛び芯を食った当たりが出るようになった。

この記事が掲載される頃には、さらに良い効果が出ていることを確信している。ロングプレス体操は年配者に適した健康法であり、皆さんも是非体験されることをお勧めしたい!

サミットの報告を兼ねての挨拶から始まり、「令和5年度三河本苑の5つの重点活動」を主題として、活動概要を各担当役員の方から説明後、各項目を順に全員で終日協議する構成で行いました。今の活動状況として、構想中であるもの、すでに一つ実践できて次につなげようとしているもの、日時を設定して実施の準備しているものなど少しずつ進んでいます。活動の様子をできるだけSNSで配信しようとの意思の疎通もできました。 楽しめる要素を含める事で活動力ある若い方々、スマホ等の操作に明るい若い方々に協力をお願いすることで、先に繋げられるようにしていきます。

心の隙

(1)

一日出庵先生之旧稿より 特任宣伝使 芝田豊海

神諭の到る処に「慢心と取違いとが一番こわいぞよ云々」と戒められてありますが、なぜ慢心と取違いとが一番こわいかと申しますに、隙をねらいつめている悪霊が、その人の心の隙に乗じてまんまと憑依するからであります。 神様の事が分らず霊界の存在を信ぜない人達には、こんな事は一寸合点のゆかぬことでしょうか、我々には間違いのない事実なのであります。前にも申しましたように如何に悪霊もその人に隙がない場合は、どうしても憑依するわけにはゆかないのであります。何か心中に悪霊の意念と相通ずるもの(恨めしい、悲しいとか、腹立たしいとか)がある場合には、それが即刻橋となつて悪霊は渡つて来るのであります。一旦悪霊との橋が懸るといふと益々心中の地獄の想念は増大して来て、その時省るという心の働きがないならばやがては悪霊にすっかり肉体を自由にされ、我知らず地獄的行為をなすに至るのであります。 併し心の底のどこかに於て神を忘れずに心顔が神に向いているならば、神さまのご守護があるので、そう易々と悪霊に心身を占領されてしまうものではありません。それに有難いことには人には誰にでも省るという心の働きがあるので、危く悪霊に橋をかけられんとし、若しくは假令一時橋をかけられても、直霊の魂さへしっかりしてて充分な内省さへ怠らなかつたら、悪霊は容易にその人を自由にすることは出来ないであります。 こんな悪霊ばかりの世の中では、この省るということが一番必要なのであります。 不断に省みてさへいたならば自分よく其の時々自分の気持ちをとらえて吟味することが出来るので、自分でも意識的に悪魔の想念に逆行すべく努力することが出来ますから、神様のお光の中に依然として居ることが出来、従つて多少地獄的霊線に包まれていても、お光によつてその灰色の霊線を一扫することが出来るのであります。

つくく

「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイタオル」持参でお願いします